

研 究 発 表 要 旨

438 同上 7. 家族関係 (その1)

われわれは、テレビの児童への影響を、彼らの人格形成に対し重要な意味をもつと考えられる家族関係がテレビによって、いかに影響されているかという面から考察した。テレビの家族関係への影響をとらえるために、家族全体に対する直接的影響と間接的影響という次元を考え、個々にとらえる事象を設定・調査し、しかる後に両者の関連を明きらかにするよう努めた。直接的影響については、テレビの存在が家族成員間の物理的接触の度合を増加せしめるであろうとの想定のもとに、母親を対象として家族の生活時間調査を行ない、テレビ群・非テレビ群による物理的接触度の差異を検討した。

439 同上 8. 家族関係 (その2)

本研究(その1)では、テレビの家族生活に及ぼす直接的影響が吟味されたが、ここではそれを受けて、さらに家族生活への間接的影響を、成員間の親和性という側面から考察する。親和性の度合を客観的に捉えるために、母親に対する質問紙調査を行い、その応答にもとづき、親和性尺度を作成した。この尺度値により定義される親和性について、テレビ群・非テレビ群の比較を行い、同時に(その1)で捉えた物理的接触度との関連を検討する。さらに家族の世代型、成員数、居住空間の広さ、親の教育観などにおける条件差と親和性との関連を吟味し、テレビの存在が、成員間の親和性に対して、どのような意味をもつものであるかを考察する。

440 同上 9. 社会生活の理解

ひとくちにテレビの影響といっても、それが児童の社会生活の理解に及ぼすしかたは、きわめてさまざまであると考えられる。ここでは、とくにニュースや時事解説などによって、現実の社会生活の理解が深められるという方向を、番組内容やとり上げ方の偏りによって、誤った理解が形成される、という方向の二つを考え、それぞれを検証するための質問紙調査を行なって、テレビ群と非テレビ群とを比較した。第1の方向としては、時事問題的な事象についての知識およびその社会的な意義の理解と歴史的・地理的意識を、第2の方向としては、時代的・距離的な錯誤を調査項目としてとりあげた。

441 同上 10. 職業観

今日の児童はテレビが造出するコピーの世界に生活している。社会的事物に対する彼らの価値観、態度、イメージは、テレビによる何らかの影響を受けずにはいない。ここでは、児童の将来の職業選択、職業指導と関連のある、児童の職業観に及ぼす影響をとりあげた。

18の対象職業を選び、S.D.法(意味尺度法)により、それらに対する、児童の態度、イメージをとらえた。分析の次元として、職業については、テレビでの接触度の高低(テレビ性)、実生活での接触度の高低(経過性)をとり、これらの次元との関連で、テレビ群・非テレビ群間のS.D.尺度上の反応の異同を比較検討した。

442 同上 11. 総括

テレビの影響については、いかなる次元でとらえ、どのような領域をとりあげるかによって結論も異ろう。われわれの研究はその一部を取り扱ったものであり、もとよりテレビの影響全般について云々することはできない。また、本研究の結果を考察するに当たって考慮せねばならぬ制約として、個人別マッチング法をとったことに伴い本調査の社会階層がかなり低い方に分布していること、テレビ群・非テレビ群間に見出された差異は必ずしもテレビ視聴の有無による因果関係を意味しないことなどがある。